

# ふくしのつどいのぎ2012

「ふくしのつどいのぎ2012」(町社会福祉協議会・町社会福祉ボランティア連絡協議会主催)が、平成24年12月15日、エニスホール大ホールで開催されました。式典では、日頃から社会福祉に尽力されている方々に表彰状ならびに感謝状が贈呈されました。

式典終了後、佐野有美さんによる講演会が行われました。

## ボランティア取材レポート 走辺 寿美子

佐野有美さんの講演

「あきらめない心」一人と比べず、昨日の自分と比べてー

ステージに登場したのは車いすに乗った清楚な若い女性。薄いピンクの服が色白の顔に映え、とびきりの笑顔で最後まで会場を魅了した。

「メイクは、3本の指のみで自分でします」とさりげなく話す佐野有美さん(22)は、愛知県出身。先天性四肢欠損症で生まれ、あるのは短い左足と3本の指のみ。「ただ、つけまつげをつけるのに苦労するんですよ」とお茶目な笑顔が可愛い。

佐野さんが生まれた時、家族は絶望のどん底に落ちたという。母親は悲しみに涙にくれ、父親は有美さんの口を手でふさぐことも考えた。だが、佐野さんの無垢の笑顔が救った。周囲から「おばけ」と言われても、生来の明るい性格でやり過ごしたという。しかし、「私は、けっしてポジティブではなく、くよくよする性格なんです」と話す佐野さん。小学校の時、自分に少し強引なところがあり、友だちが離れてしまった辛い経験があったことを話した。この心を閉ざして孤立した体験から、周りの人に感謝の気持ちを持って明るく生きたいと思うようになったという。高校に入って、チアリーディング部に入ったのも、笑顔と元気をモットーに人々に勇気を届け応援できるから。それでも、手足を動かせる他の人と比べ悩んだことも。だが、「悩んでも、手足は生えてこない」という周囲の暖かな励ましの言葉に支えられ、声出し役として活躍。「人と比べず、昨日の自分と比べること。人と比べても自信をなくすだけ」と、その後もいろいろなことにチャレンジし続けた。

09年に自伝本「手足のないチアリーダー」を出版。一般企業でパソコンを使い事務職として働く傍ら、ラジオパーソナリティアシスタント等をも経験した。11年に、自らの詩集「あきらめないで」より作品を抜粋し曲をつけCDとしてリリース、日本レコード大賞の「企画賞」を受賞。現在、多方面からの歌や講演依頼を受け積極的に活動している。

講演の後半に、子どもの頃、周囲が反対した水泳にチャレンジした思い出を披露。「父に協力してもらって泳ぐことができたのです。さて、どんな泳ぎだったのでしょうか？」という佐野さんの問いに、会場内から「バタフライ」「平泳ぎ」と声が上がった。「残念～、有美泳法で～す」と、体全体を動かす泳法を嬉しそうに説明。質問コーナーでは、「お風呂やおトイレは?」「大学生の佐野さんの姿を見たい」など、会場から次々と声上がり、それに佐野さんが丁寧に答えていた。それは、まるで講演者と観客とが言葉のキャッチボールを通して、心が一体化したかの雰囲気であった。



最後に「歩き続けよう」の歌を披露し、会場内から大きな拍手が沸き起こった。この佐野さんの講演は年内最後の講演。「来年もできることに挑戦したい。自分には手足がないけれど、声がある。多くの人に歌や声優で気持ちを伝えたい」と意欲をみせた。



講演終了後も、「人は生まれてくるとは何か理由がある」「自分を愛してあげること、そうすれば人のことも愛せる」という数々の宝石のような言葉が観客一人一人の心に残ったのではないだろうか? それで、明日への生きる勇気につながったのはまちがいないはず……。

### つどいの会場にお出でいただいた方のご意見を紹介させていただきます(アンケートより)

- ・佐野さんの話を聞いて思ったことは、「あきらめない心」を持っていれば、楽しくなることを学びました。行動しなければ始まらないので、行動してみようと思いました。(20代・男性)
- ・「自分を好きになることが、他人も好きになる」という言葉を佐野さんより習った。これからの生き方の指針になった。(60代・女性)
- ・「あきらめない」本当にいい言葉です。「前向きに明るく生きる」難しいことですが、考え方を変えることで人生を変えることが出来る。いい話でした。(80代・女性)
- ・ありがとうございます。佐野さんとの出会いに感謝します。(50代・女性)
- ・等身大の自分を語って、分りやすい話でした。「前向きな性格ではなく、前向きになりたい」と思って活動している」との言葉に励まされた。(60代・女性)
- ・子どもや孫に是非聞かせたいと思いました。学校の行事と重なって残念でした。(60代・女性)
- ・自分でも出来ることをやろうと思う。(60代・男性)
- ・感謝の気持ちに感銘した。(70代・男性)